

平成16年度事業報告書

平成15年7月に食品安全基本法が施行され、一段と食品の安全に関する規制が厳しくなってきました。しかし食品業界では依然として様々な問題が発生しており、食の安全・安心に対する信頼を回復すべく業界をあげて取り組んでいます。また近年、食生活の多様化・高度化・消費者の食に対する安全への関心の高まりなど、食品を取巻く環境は目まぐるしく変化しており、容器包装に対しても中身と同じように安全・安心への対応が強く求められるようになってきました。そのため乳等に関する容器包装の自主基準制定等の活動を通じ、容器包装の衛生及び品質の向上を図ることを目的としている当協会への期待は大きく、また果たす使命の重要性が増してきたといえます。

また平成16年度、協会にとり大きな転機となることがありました。一つは、長年にわたり協会の発展に寄与してこられました浅野勉前会長の後を受け、第43回通常総会で、第3代 臼井征之会長が選出されました。また、これを機に協会事務所が東京都千代田区の乳業会館に移転いたしました。いま一つは、厚生労働省のご指導の下、社団法人日本乳機器協会と統合について協議を重ねた結果、平成17年度から新たに「社団法人日本乳容器・機器協会」として再発足することになりました。日本乳機器協会との統合を契機に、さらに協会運営の近代化を目指し、協会組織の見直し、諸規程の改定並びに制定作業を実施し、平成17年度から実施の予定にしております。

なお協会活動として、厚生労働科学研究補助金による「食品用器具及び乳幼児用玩具の安全性確保に関する研究」に関する研究事業が今年度から3年間行われることになり、協会も「乳等用器具・容器包装の規格基準に関する研究」と「紙製器具・容器包装の安全確保に関する研究」の二つの研究班に参加することになりました。また厚生労働省の担当官との意見交換・指導を仰ぐこと等の機会を設け、お互いの共通認識を深めることを目的とした勉強会を始めました。

以上の通り、今年度は時代の変化により発生してきた諸問題に対して、食品の安心・安全確保を目的として協会事業の推進発展を図ってまいりました。

1. 各種規制とその対応について

- (1) 厚生労働省における薬事・食品衛生審議会、乳及び乳製品の規格基準改正案の審議、食品安全委員会の動向等に関して、当協会に影響を及ぼす問題に関して情報の収集、提供に努めました。
- (2) 平成17年度の容器包装リサイクル法の見直しに関する情報の収集に努めました。

2. 各部会活動について

(1) 新容器・新素材研究検討審議会

平成16年4月に「乳等のPETボトルに関する自主基準」を制定し、平成16年6月24日に会員に対する勉強会を開催しました。またご協力をいただいた、ポリオレフィン等衛生協議会、PETトレイ協議会に対しても自主基準の説明会

を実施しました。

(2) 紙容器部会及びコップ型容器部会について

紙容器分科会とコップ型容器分科会は、平成17年度に「乳等容器包装の抗接着剤に関する自主基準」を改定すべく見直し作業を実施しています。なお平成16年9月30日に日本食品分析センターから講師をお招きして勉強会を開催しました。

(3) 乳栓部会について

平成6年に制定された「乳等のガラス瓶用のふたに関する自主基準」に関して、HACCPシステムに対応した自主基準の見直し作業を開始しました。

(4) Q & A委員会

平成15年4月に制定したQ & A集の第2集の作成作業を開始しました。なお樹脂に関する質問が多くあったため、平成16年12月10日にポリオレフィン等衛生協議会から講師をお招きして樹脂の基礎的な勉強会を開催しました。

3. 乳等に関わる容器包装の知識の普及

(1) 対応

乳等の容器包装に関する問合わせに対し、適切に回答し知識の普及に努めました。また関係団体や企業等からの求めに応じ各種自主基準を配布し、必要に応じて適切な説明を行ないました。

(2) 知識の普及活動

紙容器分科会と紙コップ小分科会において、容器包装で発生する紙の端面及び夾雑物について、安全性を啓発する文書を作成し普及することを検討しております。

4. 官庁、関係団体との連携強化

(1) 厚生労働省

厚生労働省当局の情報収集に努めました。また今年度から厚生労働省担当官との勉強会を開催いたしました。勉強会を通じて、解釈・運用に関する適切なお指導を仰ぐとともに、容器包装に関しての理解を深めていただくことを目的としております。

(平成16年10月1日、平成17年3月17日の2回開催)

(2) 厚生労働科学研究

平成16年度から3年間の厚生労働科学研究補助金による研究事業「食品用器具及び乳幼児用玩具の安全性確保に関する研究」の六つの分担研究のうち「乳等用器具・容器包装の規格基準に関する研究」と「紙製器具・容器包装の安全性確保に関する研究」の二つの研究班に研究協力者として参加しています。

今年度の参加状況は、容器包装の規格基準に関する研究班会議に4回、紙の安全性確保に関する研究班会議に2回参加しました。また容器包装の規格基準に関する研究班に参加している日本乳業協会との間で事前会議を2回開催致しました。

特に、規格基準に関する研究班の平成16年度報告内容は、当協会が中心とな

って調査、報告した「諸外国における容器包装に関する法令調査」が使用されることになりました。

(3) 関係団体との連絡協調

関係団体の各種会合等に参加して、情報収集及び意見交換を行ないました。

5. 会員及び賛助会員との連絡協調

(1) 「全国乳栓容器協会だより」を発行

会報を会員の皆様に発送し、最新の協会動向を会員に伝え、ご理解ご協力をいただけるように努めました。(平成17年3月現在 第6号発行)

(2) 関西地区乳栓部会ブロック会議開催

平成17年2月4日大阪の江坂研修会館に於いて開催しました。

ア. 社団法人日本乳機器協会との統合及び定款変更について

イ. 平成17年度事業計画・予算について

ウ. 「乳等のガラス瓶用のふたに関する自主基準」の見直し作業について

(3) 情報の発信

関係当局並びに関係団体等の通知で必要なものを、随時会員に発信しました。

6. 公益法人新指導基準の対応

(1) 諸規程の整備

公益法人として求められている、「就業規程」「事務処理規程」「会計処理規程」「組織規程」等の規程案につき、法人整備委員会を中心に審議いたしました。

(2) 会計運用の見直し

公益法人会計基準に則した運用を目指すため、平成17年度予算の費用項目の見直しを実施しました。

7. 事務所移転

平成16年7月1日、協会事務所を町田市から東京都千代田区の乳業会館6階に移転致しました。事務室は22坪の広さがあり協会活動に有効に活用しております。また同日、乳業会館の関係者の方をご招待し、乳業会館3階A会議室に於いて開所式を開催致しました。

8. ホームページの拡充

協会の住所変更に伴い、ホームページのトップ画面に案内図を掲載しました。また、更新作業の遅れていました、会員・役員の名簿等を更新しました。また会員の利便性に配慮し、ホームページに予定表を掲載するなど、少しずつですがリニューアルを実施しました。

9. 会員加入促進

(1) 新規会員

平成16年4月22日の理事会において三菱樹脂株式会社の新規加入が承認されました。

(2) 社団法人日本乳機器協会について

社団法人日本乳機器協会との統合につきましては一昨年にも検討されましたが、一旦は白紙撤回されました。しかしながら、改めて平成16年7月27日に厚生労働省から同協会との統合についてご要請がありました。その後、厚生労働省のご指導を仰ぎながら両協会にて検討を重ねました。その結果、平成17年1月21日の臨時総会で統合が正式に承認されました。一方、日本乳機器協会は解散に関する諸手続きを進め、平成17年度から当協会に日本乳機器協会の会員を新たに迎えることになりました。なお新規加入予定会員は、株式会社イズミフードマシナリー・岩井機械工業株式会社・植田酪農機工業株式会社・三丸機械工業株式会社・深尾精機株式会社・ヤスタファインテ株式会社の6社です。

10. 会議等の開催状況

(1) 通常総会	平成16年6月11日	1回
(2) 臨時総会	平成17年1月21日	1回
(3) 理事会		2回
(4) 事業企画運営委員会		1回
(5) 法人整備委員会		4回
(6) 社団法人日本乳機器協会統合問題検討会議		3回
(7) 厚生労働科学研究委員会		7回
(8) Q & A委員会		4回
(9) 新容器・新素材検討研究審議会		1回
(10) 乳栓部会		3回
(11) 紙容器・紙コップ合同技術分科会		8回
(12) 紙容器・蓋材合同技術分科会		1回
(13) 紙容器部会技術分科会		4回

11. 会員の異動

会員数	36社	(平成17年3月31日現在)
賛助会員数	5社	
新規入会	1社	

以上